





ふりがな 氏名	なかの あやか	都道府県	千葉県	
	中野 彩華			
所属/肩書	八千代市立大和田南小学校 / 教諭			
関心・活動のSDGs	  			
私のESD活動	「ESDってなあに？」初めてESD・SDGsを知る子どもたちと作る、ESDの視点を取り入れた授業の展開			

活動の概要

昨年度、本校はユネスコスクールに加盟し、研究や講義を通して、教員のESDに対する理解が進み始めた。今年度からは、持続可能な社会の担い手を育むべく、ESDを意識し、その視点を取り入れた授業実践が多く行われている。

【ESD めがねをかけよう(総合的な学習・小学3年生)】

「ESDは未来をつくる学習」、初めて聞く言葉や「未来」というキーワードに、目を輝かせて授業に参加する子どもたち。まずは、「ESD めがね」をかけ、身のまわりのことから考えてみることにした。ESD めがねには、4つのレンズ(見直す・変わる・つなげる・広げる)があることを知らせ、校内を巡り、見直したところをタブレットで撮影した。「蛇口が上に向いたままだ!」「使い終わったら下に向けなきゃいけないね。」「そしたら清潔に保てそうだよ。」「そうだ!ポスターを貼ってみんなに知らせよう!」自分たちが撮影した写真をもとに、4つのレンズを使って、子どもたちはどんどん話し合いや自主的な活動を進めた。身のまわりの、当たり前な環境を、もう一度、自分たちで考えることでESDの基本となる視点を養うことができた。

現在は、ESDの視点を少しずつ様々な教科に取り入れているところである。図画工作科で余ってしまった紙をどうするか、社会科のスーパーマーケット見学で見つけたリサイクルボックスはなぜあるのかなど、常にESDの視点を持ち、考えること、そのきっかけとなる環境づくりに日々取り組んでいる。

・八千代市立大和田南小学校 HP <https://www.yachiyo.ed.jp/edainan/>

私が考える教育の未来像

教員が話すのは、ほんの数分で、あとは司会のような役割でよい。課題に対して、子どもたちが主体となって解決する手立てを考え、表現しながら進んでいくような授業を展開してみたい。そのためには、子どもたちの自己解決力が必要になる。学校生活においては、あらゆる問題が発生する。例えば、「ケース付きの消しゴムが小さくなった」ことに対して、どのような行動をとるか。このような問題に出会ったときに、PDCAのような、自力解決ができるようにする。すると、考える手立てが明確になるため、自ずと自己表現への道筋ができる。自己表現は自由だ。話したり、絵を描いたり、使いやすさや得意なツールを選ぶことで、表現への意欲を高めたい。

私の強み、活かせる経験やスキル

大学時代は、持ち前の好奇心から、短期留学や研修で多くの国に出かけた。インターネットや本では、知ることのできない街や人、文化や自然に出会い、言語の大切さを痛感した。

1年間、ベトナム・ハノイの日本人学校で教員をしていた。日本と異なる文化の中で、現地のものをつかって教材を作り、日本のカリキュラムに則った授業を行った。現地の文化を学ぶ中で、経済だけでなく、人もエネルギーに活動していることを知った。頻りにコミュニケーションをとるのもベトナムの良さである。バスに乗れば知らない人と会話を始め、市街地の中心では、大縄大会が突如開催される。この環境で生活し、柔軟さと、どこにでも飛び込んでいける勇気がついた。